

つなぐ技術で、あなたに喜びを

BUFFALO™

ピックアップ導入事例

タブレット授業が生徒の個別学習を効率化。 安定したWi-Fi環境の整備で通信費を抑えて 「スタディサブリ」導入を実現

高山西高等学校 様

高山西高等学校(以下、高山西高校)では、大学入試のCBT(Computer Based Testing)方式への移行に対応するため、タブレットを活用した補習授業の導入を決定。各教室に無線LANアクセスポイント「WAPM-2133TR」計14台を設置し、タブレット学習が可能なWi-Fiネットワーク環境を整えました。2017年4月から開始したタブレット授業では、1人1台のタブレットによる自主学習を実施。各自の学力レベルや弱点到合わせて、個別に補習授業を行えるようになり、より効果的・効率的な学習が可能になりました。

取材協力 株式会社システムエンジニアリング



高山西高等学校 副校長 小林隆徳氏(以下、小林副校長)

タブレット導入を決めたのは、 CBT対策を訴える教員の声

学校教育のICT化は急速に進んでいます。2020年度から始まる大学入学共通テストにおいても、マークシート方式からパソコンやタブレットを利用したCBT方式への移行が検討されており、一部の大学ではすでにCBT方式の導入を決めています。こうした流れに乗り遅れてはいけない、CBT方式の入試対策を早急に進めるべきだという教員たちの意見を受け、小林副校長はタブレット学習の導入を進めることにしました。

「教員と食事会で、今後の教育方針について語り合ううちに、複数の教員からタブレット学習の必要性を強く訴えられました。今後、大学入試にはタブレットが必須になる、CBT対策を行うことは、学校の魅力向上にもつながり、生徒募集にも良い効果があるはずだと。教員たちの話を聞いて、早急に対応しなくてはいけないと思いました。」

翌日から早速ICT教育に関する情報収集を開始。教頭・教務主任・進路指導部長を中心としたタブレット導入委員会を組織して、導入計画を進めることにしました。



「スタディサブリ」を使ったタブレット授業で、各自がより集中して取り組めるようになった

安心感のあるLTEか、 費用の負担が少ないWi-Fiか

タブレット学習を実施するためには、タブレットの導入とともに、インターネットの無線化が必要です。導入委員会では、既存のインターネット回線を利用してWi-Fiアクセスポイントを設置するか、新たにLTEの契約をするか、それぞれのメリット・デメリットを調査し、検討を行いました。

「すでにタブレット授業を導入している学校の事例を調べたところ、多くの学校がLTEを利用していました。場所を選ばずどこでも学習ができ、通信が安定していることから、トラブルの心配が少なく、学校としては大変導入しやすい方法だと思います。」と、LTEのメリットを説明する小林副校長。

「ただしLTEの場合、タブレットの台数分の契約が必要となり、高額な通信費を毎月払い続けなくてはならないというデメリットがあります。その点Wi-Fiは、最初に導入費用がかかるものの、その後の通信費は月数万円。これなら、生徒に新たな教材費の負担をかけずに運用できます。」

「WAPM-2133TR」の採用により、 Wi-Fi化の懸念を払拭

しかし、Wi-Fiの導入事例の中には、多台数同時アクセスによる負荷で通信が不安定になり、動画が止まってしまうなどトラブルの報告もありました。導入委員会は、同校のネットワーク管理を委託している株式会社システムエンジニアリングの森田茂氏(以下、森田氏)に、Wi-Fi化の是非について相談しました。そこで、森田氏が解決策として提案したのが、バッファローのWi-Fiアクセ

スポイント「WAPM-2133TR」でした。

森田氏は、「当社では以前から、バッファローの『WAPM-1750D』に興味を持っていました。公平通信制御機能を搭載し、100台の同時接続が可能なこのアクセスポイントなら、お客様に安心してお使いいただけるのではないかと思います。バッファローのソリューションセミナーに参加して詳しい話を伺ったところ、高山西高校さんが目指すタブレット授業に十分な性能を搭載していることがわかりました。また3月には、トライバンドに対応した上位モデルの『WAPM-2133TR』が発売されることになったため、これを使ってWi-Fi化を実施することをご提案しました」と説明します。

「WAPM-2133TR」であれば、授業中に通信が不安定になる心配はないという森田氏の説明を受け、導入委員会は採用を決定。14台の「WAPM-2133TR」を設置するとともに、これまで契約していた100Mbpsの専用線型インターネットを1Gbpsに強化。2017年4月から、280台のタブレットを活用した新たな補習授業をスタートしました。

教科・内容を選んで自主学習ができる 「スタディサブリ」

タブレット学習を実施しているのは、特進IIの2年生と3年生あわせて6クラスと、3年生になり部活動を引退した特進IIの希望者約30名。通常授業とは別に補習授業の時間を設け、リクルート社の「スタディサブリ」を使った自主学習を行っています。全員がイヤホンをつけ、自分のタブレットに集中しながら勉強している姿は、真剣そのもの。よそ見やおしゃべりをする生徒は一人もおらず、教室内の空気はピンと張りつめています。

タブレット授業を担当している平野真由教諭は、「タブレットの導入で、生徒が自分で選んだ教科・内容を学習できるようになり、生徒のモチベーションも上がっていると思います」と、その効果を実感されていました。

導入製品

エアステーションプロ インテリジェントモデル
11ac/n/a & 11n/g/b 法人様向け 無線LANアクセスポイント
WAPM-2133TR



株式会社 **バッファロー**

ホームページでさらに詳しい情報を発信中

buffalo.jp/jirei



Quick!
ナンバー
の使い方

0041

検索

バッファローホームページトップの検索ウィンドウに
ナンバーを打ち込み、検索ボタンをクリックしてください

※掲載されている各製品名は一般に各社の商標または登録商標です。※デザイン・仕様等は改良のため予告なしに変更する場合があります。※記載されている価格は希望小売価格です。